



やまぼとギャラリー 情報コーナー information



今月のやまぼとギャラリーは、「新聞紙アート」です。「くだもの」をテーマに、新聞紙を丸めたりちぎったりして作品を作りました。しかし、丸い作品に仕上がってしまうことが多かったため、「どうしたら(このくだもの)特徴が分かるかな?」と患者さんとスタッフで試行錯誤しながら作りました。是非見に来てください!

(児童指導員 白松 美優)

5病棟の生活のひとコマ 55

1月の誕生会は、あんこさんに来ていただきました。サンバや歌謡曲に合わせて、次々とマジックを披露していただき、患者さんの驚いた顔がたくさん見られました。飲んだ牛乳が、白い紐になって口から出てくるマジックがあってビックリ! 驚きでした…! あんこさんの身体はどうなっているのでしょうか? 2月は楽器演奏を披露していただく予定です。お楽しみに!



(児童指導員 白松 美優)

通所支援事業のひとコマ

今年もイベントがいっぱい?!

通所支援事業では、日常の生活を「もっと楽しく過ごしたい」と思い、制作・ハンモック・音楽あそび・散歩…とさまざまな療育活動に取り組んでいます。また、さまざまなイベントを探しては、参加することも楽しんでいます。昨年は「絵本コンクール(津市・岐阜女子大学)」へ「あし」と「ゆび」を応募し、「ゆび」が岐阜女子大学賞を受賞しました!! 応募した作品は、通所支援事業入り口に絵本を展示しています。良かったらご一読くださ〜い♪

もちろん、今年もすでいくつかのイベントに参加予定です。利用者の皆さんは、今年も作品制作にお忙しいです。すでに作品(案)に向け、「こういう感じにしたらどう?」「こうしてみようかな」とアイデア前のアイデア?! の試作品も作っています。みんなでワイワイ・ガヤガヤと賑やかな雰囲気を楽しみながら、取り組んでいます。

2019年は台風や土砂災害等、目を覆いたくなるようなニュースがたくさんありました。通所支援でも、「避難地域になったら、どうする?」「避難所で過ごすよりは、自宅の方が物品はそろって安心なんだけど…どうしよう?」等の声が聴かれました。まだまだ災害等への課題はいっぱいですが、2020年も通所支援事業は、元気に楽しくニコニコと笑顔いっぱい楽しんで過ごしていきたいと思えます。ぜひ、通所支援事業の利用者さんを見かけた時は、制作(ギャラリー展示)の感想等お聞かせください。よろしく願いいたします!!

(主任児童指導員 丸澤 由美子)



異動のごあいさつ



●小児科 牛田 英里 先生 (2020年1月15日付)

半年間、三重病院で診療させていただき、小児科の牛田英里と申します。

この度、三重大学医学部附属病院へ異動の予定となりました。短い間でしたが、たくさんの患者様やそのご家族と出会い、疾患に関して経験を積み、またそれ以上に多くのことを教えて頂いたなあと思えます。皆様のおかげで、日々楽しく充実して診療させて頂きました。本当にありがとうございました。

また、一緒に働かせて頂いた先生方、看護師さん方をはじめメディカルの方々には大変お世話になりました。どんなことも相談にのって下さり、ご教授頂き、また、急なお願いにも真摯に対応してくださり、感謝しかありません。職種は異なっていますが、それぞれのプロフェッショナルの観点から患者様のために考え診療されているこの病院で働くことができ、大変勉強になりました。

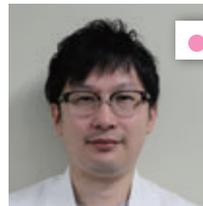
三重病院での経験を活かして、精進していきたいと思えます。今後とも何卒よろしく願い申し上げます。



●小児科 奥村 陽介 先生 (2020年1月16日付)

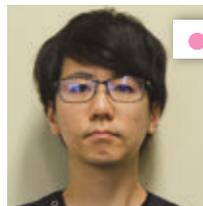
はじめまして、1月より三重病院小児科で勉強させていただいております、奥村陽介と申します。私は、奈良県山辺郡山添村、という山しかない田舎の出身です。しかし、故郷は三重県伊賀市との県境にあり、

伊賀の上野高校に進学して以来、三重大学、卒業後の勤務先、そして自分の妻との結婚や、第一子の妊娠出産においても、何から何まで三重県に育てて頂いてきました。三重には尽きない恩を感じざるを得ません。今は、こどもたちのために今何ができているのか、これから何ができるか、思い悩みながら過ごす毎日です。アレルギーや感染症をはじめ、こどもの診療・医学研究において、こと経験豊富な三重病院で勤務させて頂ける経験は、私にとって非常に貴重なものになります。まだまだ未熟者ですが、精一杯研鑽に励みたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。



●小児科 林 良一 先生 (2020年1月15日付)

小児科の林です。昨年7月から働かせていただいていたのですが、この度の人事異動で1月16日から三重中央医療センターへの転勤になりました。特に慢性期病棟においては慣れない仕事も多く、お役に立てるところか、患者様やスタッフの皆様にはご迷惑をおかけすることの方が多かったように思います。しかし、三重病院のスタッフの方々には皆、とてもやさしく丁寧に指導いただいたため、非常に働きやすかったです。ようやく仕事は多少はいろいろできるようになり、スタッフの方々とお話しさせていただいてきたところでの転勤であり、残念な思いもあります。三重中央医療センターはNICU(新生児の集中医療をおこなう部署)で働くこととなります。新生児医療は久しぶりになるので不安感はありませんが、三重病院での経験にプラスアルファをして一人前の医療者になれるよう頑張りますので、応援よろしく願いいたします。大変お世話になりました。



●小児科 長谷川 知広 先生 (2020年1月16日付)

この度三重病院に赴任しました長谷川知広と申します。ちょうど2019年度のセンター試験が終わった頃にこの原稿を書いております。私も三重大学医学部医学科を目指していましたが、センター試験の文系科目(古文、漢文)で大敗北を喫し不合格通知を受け取ったのを懐かしく思い出している今日この頃です。(結局愛知医科大学に拾っていただき、今現在小児科医として働いております。)

私は小児科後期研修医として2年目になります。これまで、伊勢赤十字病院、三重大学医学部附属病院NICUで後期研修をさせていただきましたが、小児の疾患は非常に多彩で、日々新しい発見の連続です。三重病院でもこれまでに経験したことのない疾患を診させていただく機会が多いと思えますので、自己研鑽に励み少しでも患者様のお役に立てるように精進してまいります。ご迷惑をおかけすることも多々あるとは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。